

公益財団法人  
日本中国国際教育交流協会

【2017年度の歩み 会報第24号】



■派遣

■受入

■支援

■研究等助成

第17次教育訪中団

第4次宋慶齡基金会教育交流代表団

第2回日中音楽教育交流会

東平県音楽教育支援

第6回ホームステイ（千葉）

第3回日中教育文化交流シンポジウム

第13回日本語作文コンクール

2018年3月発行

■卷頭言 公益財団法人日本中国国際教育交流協会 代表理事 黒田文男	2
■第17次教育交流訪中団（教育交流・派遣事業）	3
(1) 実施計画案	3
■第4次宋慶齡基金会教育交流代表团（教育交流・受入事業）	4
(1) 代表团受入要項	4
(2) 代表挨拶	6
(3) 第2回日中音樂教育交流会（日程・授業案）	7
(4) 代表团員感想	10
■山東省泰安市東平県音樂教育支援（教育交流・支援事業）	12
(1) 2017年度教育支援に関する協定書	12
(2) 代表団費用明細	13
(3) 東平県音樂教育支援報告	13
(4) 楽器購入リスト	13
■第6回教育交流ホームステイ in 千葉（教育交流・研究等助成事業）	14
(1) 実施要項	14
(2) ホストファミリー・留学生名簿	15
(3) ホストファミリーからの報告	15
(4) 留学生報告	17
■第3回日中教育文化交流シンポジウム（教育交流・研究等助成事業）	25
(1) シンポジウム実施計画	25
(2) シンポジウム内容報告	26
■第13回日本語作文コンクール（教育交流・研究等助成事業）	32
(1) 教育賞受賞作品 「故きを温ねて新しきを知る」 林 雪婷（東北大学秦皇島分校）	32
「日本人に伝えたい中国文化のソフトパワー」 邱 吉（浙江工商大学）	33
■資料	35
(1) 会報「共生力」 26号、27号	35
■機関関係	39
(1) 2016（平成28）年度事業報告	39
(2) 2017（平成29）年度事業計画	40
(3) 2017（平成29）年度収支予算書	41
(4) 2017（平成29）年度役員・評議員名簿	44
■協会の歩み	45
■編集後記	表紙3

## ■表紙写真

- 【左上】第4次宋慶齡基金会教育交流代表团・第2回日中音樂教育交流会（関係団体記念写真）  
 【右上】第2回日中音樂教育交流会（音樂研究授業の様子）  
 【左下】第6回ホームステイ in 千葉（参加者・ホストファミリー記念写真）  
 【右下】第3回教育交流シンポジウム（関係者記念写真）

## 卷頭言



公益財団法人日本中国国際教育交流協会

代表理事 黒田 文男

公益財団法人日本中国国際教育交流協会の事業に対しまして、日頃より多くの方々の励ましやご支援を賜り心から御礼申し上げます。

民主主義の基本的理念のひとつに自助を前提にした共助・公助の考え方をどこまで共有するかということがあります。又、其々の歴史・宗教を背景にした国の成り立ちの中で人々の生き方の違いを尊重することは最も大切にされるべきことだといえます。

日本と中国及び韓国の関係は、一衣帶水の地、「引っ越し」できない親戚のような国同士であります。互いの違いを認めつつ仲良くしていくことはごく自然であります。

そのためには、人と人の交流を前提にした信頼関係を常に醸成しようとする行動が必要となります。

当会と中国宋慶齡基金との共同プロジェクトは、まさしく国を超えての人と人の交流であるとともに、そこから得られる教育成果には大きなものがあります。

昨年の秋には、山東省泰安市東平県の教育関係者が静岡県磐田市に来られ、音楽の授業を通しての教育交流を実施しました。迎えられた磐田市立富士見小学校の神谷校長先生をはじめとする学校関係者のみならず、子どもたちも大いに喜んでいました。国は異なっても、子どもを見つめる教育者の目は、等しく優しいものだと思います。

「知ることを学ぶ。」「為すことを学ぶ。」「人として学ぶ。」そして、「共に生きることを学ぶ。」教育の原点であります。時が流れても、国が異なっていようと、「人格の完成」を希求することは、教育の不变の目的であります。

日本と中国、「明日を担う子どもたちの健やかな成長」のために、「人と人の交流」をより密にし「互助、共助、互恵」の関係を構築するようこれからも努めてまいります。

当会は、教育の振興を目的とした公益財団法人であります。

今後とも、多くの都道府県の教育関係者の方々のより一層のご支援を賜りますことを深甚よりお願い申し上げます。

## 第17次教育訪中団の実施について（教育交流 派遣事業）

2017年10月30日に、静岡県磐田市内のホテルにおいて、黒田文男代表理事・赤岡直人業務執行理事・鈴木伸昭理事と、中国宋慶齡基金会事業発展部李安晋部長・基金部公益プロジェクト担当所趙客副調査研究員・山東省東平県教育局学生出資援助センター史桂玲主任とで、来年度の教育交流派遣事業について話し合いました。その中で、来年（2018年度）中に、「第17次教育訪中団」を実施する方向で意見交換が行われました。「ここでの話し合いの中身を、中国宋慶齡基金会に報告し、改めて正式な形で返答します。」と、李部長の方からの言葉がありました。また、史主任の方からは、東平県教育局としては、是非とも実現させたいので、教育局に報告し努力しますという返答がありました。正式な返答の後に、具体的な日程等については、基金会基金部の劉所長と詰めていくことになりました。



宋慶齡基金会より、日中国際教育交流協会の活動に対して「感謝のプレート」が贈されました。

### (1) 第17次教育訪中団実施計画案

1 目 的	日中の教育交流と中国の現状視察による研修
2 実 施 日	2018年9月20日(木)～23日(日) ※予定
3 方 面	中国（北京市・泰安市・青島市）
4 参 加 人 数	約15名（協会役員・各県教職員他）
5 内 容	宋慶齡基金会への訪問、東平県の教育視察研修、現地研修（曲阜市・青島市）
6 日 程	9月20日(木) 宋慶齡基金会への表敬訪問 泰安市ホテルにて泊 21日(金) 東平県学校視察研修（教育支援を行っている学校にて音楽授業の参観） 東平県の先生方及び東平県教育局の方々との話し合い（研修） 泰安市ホテルにて泊 22日(土) 青島市見学研修 青島市ホテルにて泊 23日(日) 青島市内見学研修
7 経 費	・第17次訪中費用（交通費・食費・宿泊費）については全額の半分を協会で負担する。 ・前泊・後泊については、参加者及び所属団体で負担する。
8 協会責任者	黒田代表理事（団長）、赤岡業務執行理事（秘書長）

## 第4次宋慶齡基金会教育交流代表团（教育交流 受入事業）

10月29日（日）～11月1日（水）の4日間、静岡県磐田市を中心に、「第4次宋慶齡基金会教育交流代表团」の受入が行われました。これは教育交流受入事業としての取り組みで、「宋慶齡基金会及び基金会が推薦した東平県の音楽教師と音楽教育を中心とした教育交流・研修を行う。」「第2回日中音樂教育交流会を開催する。」を、具体的な目的として行われました。訪日代表团は、宋慶齡基金会基金部項目総合所長の劉さんを窓口に、山東省泰安市東平県教育局の全面的な協力の下に編成されました。また、「第2回日中音樂教育交流会」については、第1回と同様に、日本中国国際教育交流協会・中国宋慶齡基金会・東平県教育局の三者の共催という形で行いました。団の編成は、宋慶齡基金会事業発展李部長を団長として、基金会基金部公益項目所趙副調査研究員、山東省泰安市東平県教育局学生出資援助センター史主任、第二実験小学校吳校長、東原実験学校李音楽教師、商老庄乡中心小学校張音楽教師、大羊鎮中心小学校史音楽教師の7名でした。代表团の受入については、協会の理事でもある静岡県教組の鈴木委員長の全面的な協力を得て行われました。音楽交流会は、昨年度「第1回交流会（東平県で開催）」に参加していただいた神谷校長先生・安藤主幹教諭の勤務する磐田市立富士見小学校を会場に行われました。

### （1）教育交流代表团受入要項

- |        |  |
|--------|--|
| 1 目 的  | • 宋慶齡基金会及び基金会が推薦した東平県の音楽教師と音楽教育を中心とした教育交流・研修を行う。<br>• 第2回日中音樂教育交流会を開催する。   |
| 2 代表 団 | 中国宋慶齡基金会 2名<br>中国宋慶齡基金会事業発展部部長（団長） 李 安晋<br>中国宋慶齡基金会基金部公益プロジェクト担当所副調査研究員（秘書長） 赵 宾<br>山東省泰安市東平県教育局 1名<br>山東省東平県教育局学生出資援助センター主任 史 桂玲<br>山東省泰安市東平県教員 4名<br>山東省東平県第二実験小学校校長兼音楽教師 吳 緒柱<br>山東省東原実験学校音楽教師 李 冉冉<br>山東省東平県商老庄乡中心小学校音楽教師 张 媛<br>山東省東平県大羊鎮中心小学校音楽教師 史 晓涵 |
| 3 研修内容 | (1) 磐田市立富士見小学校への学校訪問（授業参観・給食視察体験・音楽研究授業参観）及び第2回日中音樂教育交流会<br>(2) 静岡県知事、磐田市長・教育長への表敬訪問<br>(3) ヤマハ楽器工場（ピアノ）見学<br>(4) 東京都内見学   |
| 4 日 程  | 10月29日 8:25 北京空港発<br>12:45 羽田空港着<br>15:03 東京駅発（東海道新幹線）<br>16:31 浜松市着 → 宿舎着<br>17:30 代表团との打ち合わせ・日程確認等<br>18:30 夕食 → 泊<br>30日 8:30 宿舎発<br>9:15 磐田市立富士見小学校着<br>9:30 校長室で挨拶<br>9:40 学校概要説明<br>10:30 授業参観（巡回、他教科も含めて）   |

11:25	第2回日中音樂教育交流会第1部=音樂授業参観（安藤主幹教諭）
12:10	給食交流会
13:10	第2回日中音樂教育交流会第2部=教職員との意見交換
15:30	磐田市長・教育長表敬訪問
17:00	宿舎着
17:30	基金会・教育局との話し合い（第17次訪中団について他）
18:00	歓迎レセプション
20:00	日程確認等 → 泊
31日 9:00	宿舎発
10:00	ヤマハ楽器工場見学
12:40	静岡県知事表敬訪問
14:38	静岡駅発（東海道新幹線）
15:40	東京駅着 → 宿舎着
	東京都内見学
18:30	夕食 日程確認 → 泊
11月1日 9:00	東京都内見学（浅草散策他）
12:45	宿舎発
17:20	羽田国際空港発
20:30	北京空港着

### 5 第2回日中音樂教育交流会参加者

教育交流代表团	7名
富士見小学校音楽教育関係職員	5名
協会役員	3名
静岡県教組	3名

### 6 レセプション参加者

教育交流代表团	
協会	黒田代表理事
会員	赤岡業務執行理事
役員	鈴木理事
実施校	中村監事
来賓	他
	吉田委員長（茨城県教組）
	福田委員長（千葉県教組）
	土井委員長（東京教組）
	静岡県教組役員
	神谷校長
	安藤主幹教諭
	磐田市村松教育長
	他



## (2) 代表挨拶

公益財団法人日本中国国際教育交流協会  
代表理事 黒田 文男

第4次宋慶齡基金会教育交流代表团の皆様を、心より歓迎いたします。

ようこそ日本においでくださいました。

宋慶齡基金会事業発展部長の李団長様はじめ、山東省泰安市東平県教育局の史主任様、山東省東平県第二実験小学校長の吳様、団員の皆様を、大歓迎いたします。

先生方を、日本のシンボル「富士山」がある、この静岡県にお招きできたことは、大きな喜びです。

静岡県は、日本の大動脈である東海道に位置し、商工業も発達しています。

また、富士山に抱かれた駿河湾では、漁業も盛んにおこなわれています。

さらに、私事で恐縮ですが、静岡県は私の故郷です。

改めて、皆さんの来県を、心より大歓迎いたします。

日本に4日間、静岡県には3日間という短い滞在ではありますが、大いに成果を上げていただきたいと思います。

静岡県の音楽の先生方と、音楽教育について具体的に交流され、相互に学び合うことが、日中両国の子どもたちの健やかな育成に役立つことを、心より期待しています。

今回の訪日団に際し、宋慶齡基金会の皆様には大変なご尽力をいただきました。

また、山東省泰安市東平県教育局の皆様のご協力にも感謝しています。

そして、当協会の事業に対し、昨年の第1回日中音楽教育交流会での訪中から、今回の受け入れまで、ご理解とご協力をいただきました磐田市の教育関係者すべての方々に、お礼を申し上げます。

今回の音楽教育を通して、両国の教育が益々発展する契機になるとともに、両国の友好が「人と人の交流」を持ってより緊密になりますことを願い、歓迎のご挨拶とします。

中国宋慶齡基金会事業発展部  
部長 李 安晋

この実りの秋にあたり、日中国際教育交流協会の招きに応じ、中国宋慶齡基金会は東平県音楽教師交流団のメンバー7人を組織し、日本へ交流訪問を致しました。

僭越でございますが、中国宋慶齡基金会と訪日代表団のメンバーを代表いたしまして、ひと言お礼の言葉を申し述べさせていただきます。今回は日本と中国の架け橋としての交流会を催していただき、誠にありがとうございます。

中国宋慶齡基金会は中国の名誉主席の宋慶齡の名前で命名され、1982年に創立して以来、ずっと“平和、統一、未来”的趣旨の通り、公益事業に熱心に取り組み、民間交流を展開しつつ、青少年イベントを行っております。基金会は長年、日本の多くの民間団体と親密な交流と協力を展開しており、共に日中両国の国民の相互理解を絶えず増進するように、異文化間のコミュニケーションを推進するように力を尽くしております。日中国際教育交流協会とは2006年から連携をはじめ、そして交流活動を行い続けております。

貴会は河北省易県と山東省東平県の多くの中小学校を出資して援助し、楽器、机と椅子を寄贈した他、農村教師の育成と日中両国の音楽教師の交流活動も行いました。中国の音楽教育の発展にも、日中両国の民間交流にも重要な役割を果たしました。

心の通じ合いにより、人々の関係が親密になります。国民の親密な関係から、国交の発展が生まれます。民間の友好関係はまさに日中両国の友好関係を推し進めております。そして感情を表現する芸術——音楽は、訳す必要のない言語として、異なる民族の心を繋げ、文化交流の架け橋になります。今回の訪問により、日中両国の音楽の教育と文化の交流を推進し、友好関係を深めることを期待しております。

今回交流訪問の音楽教師の大部分は初めて日本に來るので、みんなにも今回の機会を大切にして、良く見て、聞いて、観察して、交流して、日本の学校の先進的な理念、優秀な経験を学び、知識と友情を収穫出来ますように頑張って欲しいです。そしてこの訪問をきっかけに、日中の文化交流を推進する力になればと思っております。

最後に、今回の訪問の成功と日中友好関係の発展を心よりお祈りします。

山東省東平県第二実験小学校

校長兼音楽教師 吳 緒柱

私は中国山東省東平県第二実験小学校の吳緒柱です。今日は交流団の全ての教師を代表して発言することになり、大変光栄に思っております。

まず、今回は中国宋慶齡基金会と日中国際教育交流協会のおかげで、私達が日本に来られ、日本の小学校の音楽の授業を見学し、日本の教師の先進的な教育理念と教育方法を学ぶことが出来まして、誠にありがとうございます！

ここ数年、宋慶齡基金会は我が県に支援し、2つの小学校を建て、通学バスと辞書を寄贈しました。2016年以来、日中国際教育交流協会の支持により、11ヵ所の農村小学校に200万円台の楽器を寄贈しました。また、基金会はずっと日中両国の音楽教師の交流活動を催しています。これらの公益活動により、私たち教師は支持を受け、恩を感じ、熱意を持って教育事業に力を尽くしたいと思っております。

近年、東平県は「人間本位、全面発展」の主張を元に、音楽教育に力を入れ、教育改革を深め、学生の芸術の教養と総合素質を全面的に高りますように努力しております。2016年に1.2億元投資し、芸術と体育設備を充実させ、県内すべての中小学校に音楽、美術、体育器材を備えました。

同時に、県内中小学校はすべて「体育と芸術2+1」プロジェクト実施しております。様々なイベントも行われております。小型楽器の授業、音楽サークルの成立、伝統芸術の普及と芸術祭、競演会などのイベントにより、学生の素質を高めます。毎年省市県の各イベントの中で受賞する学生は千人弱います。

去年の8月、我が県の東原実験学校で開催された「日中音楽教育交流会」で、神谷校長先生と安藤先生の音楽教育に対する熱意と真剣な態度は私たちに強く印象を残しました。先生たちの先進的な教育理念と知恵の溢れる授業の進め方により、大変勉強になりました。

今日、私たちは2人の専門家のいた学校に来られ、根本を求め、直接で全面的に勉強することができます。私たちは今回のチャンスを大切にして、この後の教育活動の中で、その貴重な経験を東平県の実際と結び付けて運用し、音楽教育の水準を高めたいと思っております。

皆様、私たちは山東省東平県の美しい東平湖の傍に、皆様のお越しをお待ちしております。

今日は私たちの交流によって、親睦を深め、引き続き日中友好を進めていきたいと思っております。

## (3) 第2回日中音楽教育交流会

○主催団体 (公財)日本中国国際教育交流協会 中国宋慶齡基金会 山東省泰安市東平県教育局

○目的 日本、中国双方の音楽教育の実践について交流し、互いの音楽教育の質の向上を図る。

【日 程】 (日課: 第1日課 B週) 控え室(図書室)

1 9:30~9:40 挨拶 (校長室)

2 9:40~10:15 学校概要説明 (校長: 神谷比登美) (図書室)

3 10:30~11:15 授業参観

巡回順	学年・組	担任・授業者氏名	教科・領域	場 所
1	4-2	弓桁 綾花	音楽	音楽室
2	1-1	伊東 秀晃	図工	1-1教室
3	1-3	山崎 敦子	音楽	1-3教室
4	4-4	加藤智慧子 ALT: コニシ・ウィルマ	外国語活動	4-4教室
5	5-3	松下 悟	体育	運動場(体育館)
6	6-3	山本 篤	算数	6-3教室
7	6-2	長澤 鮎美	国語	6-2教室

4 11:25~12:10 音楽教育交流会1 授業参観【中心授業】

学年・組	授業者氏名	教科・領域	場所
5-3	安藤 佐織	音楽	音楽室

(12:10~13:10 昼食・休憩)

5 13:10~13:25 ダンスタイム参観

6 13:30~14:30 音楽教育交流会2 (音楽室)

参加者5人：校長・安藤・弓桁・山崎・伊東

【題材構想】

題材の目標

- 旋律やリズム、歌詞、互いの楽器の音、旋律の重なり、反復や変化に興味・関心をもち、曲想にふさわしい表現で歌ったり合奏したりする学習に主体的に取り組もうとする。 (音楽への関心・意欲・態度)
- リズムや旋律の反復、強弱の変化を聴き取り、どのような演奏にするかについて思いや意図をもち、曲想を生かした表現を工夫する。 (音楽表現の創意工夫)
- 歌詞の内容や曲想に合う歌い方で歌ったり、楽器の音色や旋律の特徴を生かして旋律楽器や打楽器を演奏したりしている。 (音楽表現の技能)
- 曲想とその変化を感じ取りながら、楽曲の特徴や構造に気を付けて聴く。 (鑑賞の能力)

【題材を貫く問い合わせ】曲想にふさわしい表現をするために、どのような工夫をしたらよいだろう。

学習の流れ

題材	教材	学習活動	時数	評価
曲想を味わおう	鑑賞（威風堂々）	○威風堂々第1番を聴き、【団：激しく動く旋律】【団：ゆったりと動く旋律】の曲想の違いを感じ取って聴く。	1	(関・意・態) 图形楽譜をかきながら聴いたり、指揮のまねをして聴き、リズムや旋律、速度や強弱の変化を感じ取ろうとする。(CD鑑賞) (鑑賞の能力)
		○団の旋律をリコーダーで演奏して旋律に親しみ、団から団への曲想の変化や和音の響きを味わう。	1	リズムや主な旋律の反復、変化などを聴き取って、それが速度や強弱とかかわり合って表す曲想やその変化に気づく。 (鑑賞の能力) 曲想とその変化や、オーケストラの響きと和音の移り変わりとのかかわり合いから想像したことや感じ取ったことを言葉で表す。(DVD鑑賞)
歌唱（まっ赤な秋）	歌唱	○範唱を聴いたり、歌詞を音読したりして、言葉の繰り返しや旋律の特徴に気付き、響きのある声で主旋律を歌う。	1	(関・意・態) 鑑賞の学習で学んだことを生かし、リズムや旋律、歌詞とのかかわりに関心をもち、曲想の変化を感じ取って、曲を聴いたり歌ったりする。 (表現の技能：歌唱) 「まっかだな」という歌詞、情景を表す言葉や旋律を意識し、響きのある声で歌う。 (創意工夫)
		○歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。 (本時4/7)	1	旋律や記号、言葉を根拠にし、どのような工夫をすると、曲想の変化を表現することができるか考えている。 (表現の技能：歌唱) 旋律と強弱記号の関係、歌詞について考え、グループで話し合ったことを表現している。

器楽 (キリマンジャロ)	○樂器の掛け合いや、団の曲想の違いを感じ取って全体を聴き、主旋律をリコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏する。	1	(関・意・態) 鑑賞や歌唱で学んだことを生かし、リズムや旋律、反復や変化に関心をもって聴き、団の曲想に違いを意識して主旋律を練習する。 (表現の技能：器楽)
	○拍の流れにのり、旋律の特徴を生かしてリコーダーと鍵盤ハーモニカを演奏する。	1	団の曲想に違いをつかんで樂器を演奏している。 (創意工夫)
	○曲想の変化を感じ取って表現の仕方を工夫し、合奏する。	1	曲想の変化に合う表現を工夫し、どのような演奏にするか思いや意図をもっている。 (表現の技能：器楽) 互いの樂器の音、リズムや旋律の重なり、曲想の変化を味わいながら演奏している。

第5学年3組 音楽科学習指導案

指導者 安藤 佐織

- 日時・場所 平成29年10月30日(月) 第4校時 音楽室
- 題材名 曲想を味わおう「威風堂々 第1番」「まっ赤な秋」「キリマンジャロ」
- 目標 旋律や記号、歌詞を根拠にし、どのような工夫をすると曲想の変化を表現することができるか考え、歌唱表現に生かしている。  
(音楽表現の創意工夫) (表現の技能：歌唱)
- 準備物 拡大した楽譜 歌詞(模造紙) 書き込み用楽譜(グループ)
- 学習展開 (4/7)

段階	学習活動(◎) 主発問(○) その他の発問(・) 児童の表れ	支援(※)と評価
見通す	<p>1 発声練習をし、既習曲を歌う。</p> <p>2 前時を想起し、学習課題をつかむ。</p> <p>○曲想が変わるところは、どこでしたか。 ・3段目の「♪しずむ夕日に 照らされて・・・」。</p> <p>○1・2段目(前半)と3・4段目(後半)は、どんな曲想でしたか。 ・前半は、元気よくはずむ感じ。(要素：リズム) ・後半は、やさしい感じの旋律。(要素：旋律) ・後半の歌詞は、情景を表していて曲の山がある。(要素：強弱記号)</p> <p>⑥曲想にふさわしい歌い方をするためには、どんな工夫をするとよいだろう。</p> <p>○曲を聴きながら、自分の考えを楽譜に書き込もう。 ・CDを聴いたり一緒に歌ったりして、記号に印を付けたり、言葉を書き込んだりする。</p>	<p>※前時の学習を想起し、「まっ赤だな」という歌詞、情景を表す言葉や旋律、曲想が変化するところを確認する。</p> <p>※ポイントを押さえるために音楽的要素をカードで提示し、強弱記号と旋律の動きをかかわさせて考えたり、言葉やリズムをかかわらせて考えたりすることを押さえる。</p> <p>※自分の考えをもつことができるよう、繰り返し曲を流す。また、一緒に歌って確かめるように助言する。</p>
深める	<p>3 グループで表現を工夫する。</p> <p>○グループで考えた工夫を楽譜に書き込み、曲想にふさわしい歌い方になるように練習しよう。</p> <p>・旋律が上がったり下がったりするところは、強弱で表そう。 ・「まっかだな」は、はずむように歌いたい。 ・3段目からは、なめらかに歌うといいと思う。 ・3段目からは、語りかけるように歌いたい。 ・4段目は、曲の山だから、一番盛り上がるようフォルテで歌おう。</p> <p>○グループで考えた工夫が歌で表現できているか、ペアのグループと聴き合おう。</p> <p>・ペアグループの歌を互いに聴き合い、アドバイスし合う。 強弱の変化が分かりにくいから、音が上がっていくときは強くしていくといいよ。 後半は、なめらかな歌い方になっていてよかったよ。 前半は元気な歌い方で、後半は、気持ちをこめて語る感じで歌っていたから、曲想のちがいが分かってよかった。</p>	<p>※グループで話し合ったことは、拡大した楽譜に書き込み、それを参考に歌う。</p> <p>※正しい音程で歌えるように、タブレット(予め伴奏を録音しておく)を使って練習する。</p> <p>※考えや意図をもって歌おうとしている意欲を認める。</p> <p>※アドバイスするときは、拡大した楽譜を根拠(旋律、強弱記号、言葉等)に相手に伝えるとよいことを助言する。</p> <p>※相手グループと意欲的に対話している場面を捉え、認める。</p>

まとめる	<p>4 全体を2グループにし、聴き合う。 (ペアグループを前半発表グループ・後半発表グループに分ける)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大勢で歌うと、曲想の変化がよりはっきりと聴こえた。</li> <li>・強弱の変化があって、曲の山が盛り上がってよかったです。</li> </ul> <p>5 曲想にふさわしい歌い方を意識して、全員で歌う。</p> <p>6 学習の振り返りを書く。</p> <p>旋律や強弱記号、歌詞をもとにして、声の強さや歌い方を工夫すると、曲想に合った歌い方ができるようになってきた。</p>	<p><b>評価(創意工夫、表現の技能)</b></p> <p>曲想の変化を表現するために、旋律や記号、歌詞を根拠に歌い方の工夫を考え、歌唱表現に生かした。(グループ練習・発表)</p> <p>※曲想に合った歌い方をようと意欲的に歌っている姿を認め、姿からも考え方や意図が伝わってきたことを伝える。</p>

#### (4) 代表団員感想 (第4次宋慶齡基金会教育交流代表团・第2回日中音乐教育交流会へ参加して)

山东省東平県教育局学生支援センター主任 史 桂玲

四日間の短い訪日ですが、目線の文化ショックだけじゃなく、胸の動きも引き出しました。専門上の知識のほか、中日両国民衆の友情も育むことができてうれしかった。

日本国の大綺麗さ、町の清潔、民衆の環境保護意識の強さ、警察が見えないところには、全部想像以外でした。やはり「百聞は一見に如かず」。環境意識は中国では、特に大都市では段々強くなりましたが。日本人の時間観念は強くて、計画とか、スケジュールでは、「分」単位で確実に手配しているようです、本当に勉強になりました。



山东省東平県第二実験小学校 吳 緒柱

訪日代表団の一人としてとても光栄だと思います。この四日間、沢山のことを見て、いろいろ感じて考えました。とりあえずまとめます。

##### 一、富士見小学校の音楽授業の様子

- 1 教育のプロセスは大体一緒です。発音練習、この前の歌と知識を復習、新しい内容を導入して、新しい曲と音楽知識を習い、練習して、グループに分けて練習してから発表するとか、のようです。
- 2 授業の組織形式は大体一緒です。全員で歌い、グループに分けて歌い、先生に見習い、先生が教室を回って指導、グループで協力、交流と発表、ピアノで「おかげください」などの指令を出すなどです。
- 3 授業の目標も大体一緒です。歌と曲の練習を通して、音楽原理知識を理解し、音楽を感じて表現して、リズムの変化を感じてもらい、学生の趣、美学などを育てます。
- 4 授業中学生に対する発声練習は、私たちはまだ不足だと思います。富士見小学校の学生たち、声がとても美しい、発声の位置も表現力もいいと思います。聞いてみたら、みんなは小さいときから社会の専門トレーニングを受けているようです。中国のクラスでは人数が多くて、個人的な指導を受けることは難しいです。これからもっと学生の発声練習を強めます。大きい声ではなくて、発声の質を大事にしなければなりません。



聞いて、お互いに直して調整する、そして録音設備を利用して、学生の歌を録音してから聞かせる。

6 グループ内で協力して勉強する様子は大体一緒です。日本の学生は少ないので、参加のチャンス、時間と空間も提供できます。中国は人数の制限でこの面では効果がこんなによくないです。

7 小楽器は授業に利用することはまだ不足です。

小学校を見学して、一番印象的なのは、神谷校長先生はとても優しくて、明るくて、若くて活発な女性だと思います。学生に心を込めた愛、いっぱいです。共同成長、共同育成という神谷先生の教育目標はみんなの力と知恵が集まっています。その中には、一、学生に清聴して会話する能力を育成することを大事に。二、学生を主人公にすること。三、学校特有の資源を十分利用すること。たとえば、有名なスターとか。四、学生を世話をすることは細かいところからです。

山东省東原実験学校 李 冉冉



個人としては、授業経験は多くないです。今回の訪問を通して視野を広げ、個人的な各方面の能力も高めました。そして勉強も促進して成長してきたと思います。音楽教師としては、みんなの期待に裏がないように、授業内容を豊かにし、子供の皆さんに集中してもらい、先生の指導によって授業をスムーズに進めてもらうことなど、自分の授業にたくさんのアイディア、思い出しました。

日本の先生たちとの交流では、沢山の新しいものを見つけ、いい交流となりました。授業について貴重なアドバイスをいただき、各小学校特有のコンパス文化によって授業することなども論議しました。先生たちとの友情も深めました。楽しくて、経験豊かな交流で、本当にありがとうございました。

山东省東平県大羊鎮中心小学校 史 晓涵



受け入れ側の神谷比登美校長先生は、小学校の事情と理念を紹介してくれました。「共同勉強、信頼勉強」のようです。学生の自制力を育てるのは、お互いに相手の言葉を述べ、信頼感を深めることができます。

学校では、一年生と四年生の授業を見学し、学生が楽器を習う姿がみました。中国での「小楽器は授業に入る」と似ていますね。安藤先生の授業を見学して勉強になりました。授業中はテーマ変化によって、歌と曲の感情変化、強さの変化を、学生自身から論議して、赤印でつけてもらいました。安藤先生は手拍子して、各組を指導する姿はとても印象的でした。

日本の教育は学生に積極的に勉強して交流してもらい、音楽と対話して、テキストと対話してもらうことができるようです。自分の考え、またはクラスメートとの交流を通して自分の音楽能力と理解力を高めることができます。音楽要素はとても自然に授業に溶かすことができます。これは、一番勉強したいとおもいます。

山东省東平県商老庄乡中心小学校 张 媛



長い間日本は教育事業を大事にしているので、日本の民衆は教育に尊敬の念を持っているようです。それこそ教育制度の発展を表しています。それは教育の質の向上に役立ちます。教育者の私は、これからも引き続き積極的に、困難を越えて、数学教育をもっと深く探究し、スピードを出して進め、特色のある先進的教育の道を辿っていきたいと思います。

教育は基礎です。中国を出て日本に参り、さらに深く感じました。子供は国と民族の未来で、この世代の子供はどんな教育をうけたか、どんな視野をもっているか、どんな素質と修養を持っているかは、国と民族未来発展の質を決めていると思います。この意味では、私たち、まだまだ責任が重いです。

## 山東省泰安市東平県音楽教育支援（教育交流 支援事業）

山東省泰安市東平県への新たな教育支援プロジェクトが開始されて3年目となりました。今年度も、泰安市東平県教育局及び宋慶齡基金との打ち合わせを通して、東平県の小学校への音楽教育機器等の教育支援の内容を決定しました。今年度教育支援費100万円については、9月下旬の協定締結後、速やかに宋慶齡基金を窓口として、東平県教育局へ送金しました。

### （1）2017年度教育支援に関する協定書

<p><b>2017年度教育支援に関する協定書</b></p> <p>宋基会法字(2017)187号</p> <p>公益財団法人日本中国国際教育交流協会と中国宋慶齡基金は、日中両国の友好のため、特に中国国内の経済発展途上地域における子どもの福祉のため、またより多くの子どもに教育を受ける機会を提供するため、今後共同の活動領域において互いに協力していくことで合意した。こうした目的を達成するため、以下の協定を結ぶ。</p> <p><b>第一条（目的及び用途）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>公益財団法人日本中国国際教育交流協会は、中国山東省泰安市東平県の児童・生徒に対する音楽教育支援を中国宋慶齡基金を通じて行う。これによって音楽教育環境を改善し、水準を向上させる。</li> <li>公益財団法人日本中国国際教育交流協会は、中国宋慶齡基金、中国山東省泰安市東平県教育局と共に、日中小学校の音楽教師による第2回目中音楽教育交流会（今年度は日本で開催）を開き互いに学び合う機会とする。</li> </ol> <p><b>第二条（送金及び報告）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2017年、公益財団法人日本中国国際教育交流協会は中国山東省泰安市東平県の小中学校の教育条件・教育レベルを改善するため、及び、第2回目中音楽教育交流会へ参加するために100万円を送金する。</li> <li>公益財団法人日本中国国際教育交流協会は2017年10月20日まで、100万円を中国宋慶齡基金の指定口座に振り込む。中国宋慶齡基金は振込を受け次第、100万円を山東省泰安市東平県教育局に送り、当地小中学校音楽教育の振興と日中音楽教育交流会への参加費用（中国国内分）に使う。</li> <li>中国宋慶齡基金はプロジェクトが完成する際に、実施報告（具体的なプロジェクトの実施内容、決算を含む）を公益財団法人日本中国国際教育交流協会に提出する。</li> </ol> <p><b>第三条（その他確認事項）</b></p> <p>第2回目中音楽教育交流会への参加については、第4回宋慶齡基金訪日代表団の受け入れと重なるので、中国国内については送金した100万円から出し、北京を出発してから北京に帰着するまでの交通費・宿泊費及び食費等については、全て公益財団法人日本中国国際教育交流協会で負担する。</p> <p>双方は以上の協定に同意し、この協定を日本語と中国語共に各二部を作成し、双方の代表が署名捺印の上、それぞれ一部を保存するものとする。</p> <p>公益財団法人日本中国国際教育交流協会 代表： 2017年10月10日</p> <p>中国宋慶齡基金 代表： 2017年10月16日</p>
---

### （2）代表団費用明細（中国国内）

収入	① 日本中国国際教育交流協会よりの100万円 58101.00元（人民幣）
支出	① 公用雑費：2365.80元
	② 5名の先生、東平県から北京へ往復交通費：1926元
	③ 5名の先生、北京での宿泊代（二日間）：1920元
	④ 7人のビザ申請費用：4680元
	⑤ 北京空港へ往復交通代：1200元
	⑥ 食事代：400元
	⑦ 資料郵送費用：24元
	合計：12515.80元

残額 58101.11元 - 12515.80元 = 45585.20元

※残額はそのまま東平県音楽教育支援費となりました。

### （3）東平県音楽教育支援報告

<東平県教育局より>

日本中国国際教育交流協会・中国宋慶齡基金にはいつもお世話になっております。

東平県何村小学校、佛山小学校と喜舎小学校は郊外、田舎に位置しています。何村小学校は先生18名、5つのクラスで、生徒193人の学校です。佛山小学校には先生56人、20クラスの1200名生徒がいます。大羊鎮喜舎小学校には先生31人、10クラスの443名生徒がいます。この2年来、人口の増えにつれ、この3箇所の学校の生徒数も年ごとに増えています。

近年來、この3箇所の小学校は教学質のレベルアップを主にして、コンパスの環境建設と文化建設を強め、生徒の総合素質を高めて、各方面的仕事はいい成績を取りました。しかし、各学校財産力が限られていますので、今まで音楽とか、体育とか、美術とかの施設はまだまだ不十分です。特に音楽楽器は大体持っていないません。普通の音楽教學には満足できない。生徒の総合素質を育てるために、この3箇所の小学校の楽器支援をお願いしたいです。

最後に、長年、支援し続けていただき、再び御礼申し上げます。

2018年1月  
東平県教育局

### （4）楽器購入リスト

学校名	楽器種類	数量	単価	合計
喜舎小学校	電子キーボード	2	2880	5760
	二胡	10	300	3000
	瓢箪樂器	15	162	2430
何村小学校	電子キーボード	2	2880	5760
	腰太鼓	11	80	880
	瓢箪樂器	20	162	3240
佛山小学校	電子キーボード	8	2680	21440
	腰太鼓	20	80	1600
	琴	1	1500	1500
合計				45610

## 第6回教育交流ホームステイ in 千葉 (教育交流 研究等助成事業)

外国人留学生は、年々増加しています。特に多いのは、中国からの留学生です。彼らは日本での生活の間に、より多くのことを経験し、また学ぼうと意欲に燃えています。そうした留学生に関わって、日中の教育交流及び文化交流そして強い相互信頼による結びつきを目指す協会の願いとしては、「日本を理解し、日本と母国との友好を担ってくれる人材により多く育て欲しい」と、言うことがあると思います。日本に留学している学生のほとんどは、日本語学校に通学していますが、特に入学初年度は語学力も十分でない上に、なれない異文化の中で、学業・日常の生活面で困難に直面している学生も多いと言われています。協会では、こうした留学生の語学力の向上をめざし、日本をより良く理解する人材を育成するために、教育交流・研究等助成事業としてホームステイ事業を実施しています。今年度で第6回目となる本事業は、上記の諸課題等に対して大きな成果を上げつつあります。

### (1) 実施要項

- |        |   |
|--------|---|
| 1 実施目的 | 中国人留学生の日本語学習の一助として、日本家庭でのホームステイを体験し、ホストとの交流を通して日本語の語学力を磨き、日本人及び日本文化に対する理解を深め、日中両国の友好の礎を担う人材を育成すること。   |
| 2 実施期日 | 2017年（平成29年）8月4日（金）から6日（日） 2泊3日   |
| 3 実施場所 | 千葉県下の小中学校教職員の家庭   |
| 4 対象者  | 中国からの留学生（大学・大学院入学のための語学研修生）   |
| 5 募集数  | 7人（ホストファミリー7家庭）   |
| 6 募集方法 | <ul style="list-style-type: none"> <li>留学生7名については、フジ国際語学院等を通じて公募・選考する。</li> <li>ホストファミリーについては、千葉県の教職員関係団体の協力を得て選定する。</li> <li>男女比は、ホストファミリーの希望を聞きながら調整する。</li> </ul>  |
| 7 日程   | <p>8月4日（金）<br/>新宿駅9：30集合→千葉へ（中央線・総武線）、千葉県教育会館11：00ホストファミリーと合流（自己紹介等セレモニーを）→ホストファミリーごとに活動にうつる</p> <p>8月5日（土）<br/>ホストファミリーごとの取り組み</p> <p>8月6日（日）<br/>午前中はホストファミリーごとに過ごす→千葉県教育会館15：00ホストファミリーとのお別れ会（全体総括会）→千葉駅16：30（総武線快速）→新宿駅18：00解散</p>  |
| 8 経費   | <ul style="list-style-type: none"> <li>留学生から参加費20,000円を徴収し、財団から交通費（実費）及び食費等5,000円を支給する。ホストファミリーへの受け入れ費用30,000円を支出する。</li> </ul>   |
| 9 取り組み | <ul style="list-style-type: none"> <li>年度開始早々に、フジ国際語学院の担当者（山田先生）・千葉県教職員組合の責任者（福田委員長）と連絡・打ち合わせを密にしながら行う。</li> <li>7月26日（水）11：00～ ホームステイ希望参加学生説明会<br/>14：30～ ホストファミリー説明会</li> <li>各ホストファミリーには、計画書を出してもらう。</li> <li>ホームステイ希望者には、紹介書類等を出してもらう。</li> <li>留学生には、旅行保険を掛ける。（協会で負担）</li> </ul> |
| 10 その他 |   |

### (2) ホスト・学生参加者名簿

No.	名前	現在の所属	学生氏名	ローマ字	年齢	性別
1	吉田 隆之	千葉市立みつわ台南小学校教諭	傅 舒桐	FU SHUTONG	18才	女性
2	齊藤 直文	船橋市立湊中学校教諭 船橋支部副支部長	趙 祥虎	ZHAO XIANGHU	19才	男性
3	津久井智洋	鎌ヶ谷市立五本松小学校主幹教諭 東葛支部副支部長	賴 彤云	LAI TONGYUN	17才	女性
4	八木 幸生	銚子市立高神小学校教諭	凌 志栋	LING ZHIDONG	17才	男性
5	宮野 勝典	大網白里市立増穂北小学校教諭	卢 子牛	LU ZINIU	19才	男性
6	高柳 喜江	房総の会（退職女性教職員の会） 山武支部支部長	陳 咏琦	CHEN YONGQI	18才	女性
7	永嶽みね子	君津支部女性部長OG	孙 超	SUN CHAO	20才	男性
	積田 文子	平和を語り継ぐ会（ピーススタッフみづ）会長 房総の会				

### (3) ホストファミリーからの報告

#### よかつた点など

- 家族でも日本を振り返る良い機会となりました。
- 子どもたちが異文化に興味を持てるようになりました。
- 個人データー票や自己紹介の手紙があったので、事前にある程度の計画が立てられて良かったです。
- 異文化交流により、お互いにいろいろな違いが発見でき、子ども達にとっても良い学びの機会となりました。
- 日本語がとても良くできていたり助かり、交流がとてもスムーズでした。
- 食べ物の好き嫌いもなく、アレルギーなどもなかったのでいろいろと挑戦してくれ、嬉しかったです。
- 子供たちとも仲良く過ごし、優しく面倒見も良かったです。
- 身の回りのことなどもしっかりしていて、何も心配いりませんでした。
- 意欲あふれる学生さんを迎えて、家族の元気がありました。
- 息子達は都合がつかなかったのですが、1kmくらいの所にいる妹たちが、食事作りやお茶の応援をしてくれました。95才の母をはじめとして、みんなが陳さんからエネルギーをもらいました。
- 横芝小学校教諭の廣瀬恵美さんに宿泊をともにしながら係わってもらいました。彼女の感想です。「陳さんの様に未来をみて一生懸命頑張ろうとしている子を応援するのはうれしかったです。日本に陳さんの様な子が増えたら、将来日中関係は何か変わるかも知れないと思うとわくわくします。」廣瀬さんはそんな子どもを育てくれると思います。
- ホストがファミリーだけでなく、千教組君津支部・房総の会君津支部「平和を語り継ぐ会」の会員等、多くの



方々の協力をいただき、計画・運営が出来たこと。その結果お互いの協力は勿論のこと、深い絆が出来、留学生も色々な人達との幅広い交流・体験が出来たと思う。

- ・歓迎会（永嶋家）では沢山の人々と共に過ごし、日本の文化を伝える事が出来た。夏の日本情緒をと、浴衣姿で寛ぎ記念撮影、日本のまつり寿しの作り方見学・試食・正座・乾杯・挨拶・中国語での「赤とんぼ」の歌等…。
- ・支部青年部教師の「平和を考える会」に留学生が一緒に参加し戦争について考えられたこと。戦争の映画を見て、「心が重いです。死んで傷ついていく戦争は良くないです。」と胸をおさえて話していた。
- ・ホスト（積田）の家では、夜、別に暮らす子どもや孫が合流し、楽しく会話やトランプに興じ、次の日は花火の見物等と共に交流が出来、日中の架け橋としての目的が充分に達成できること。
- ・事前に留学生の調査票や、作文等があり、計画が立てやすかった。
- ・会話は、ほぼ理解でき、困ったことは無かった。留学生は、不明な場合はすぐにスマートフォンで調べ納得し喜んでいた。
- ・教養の良さが随所に感じられ、人間性豊かで、魅せられた、奥の深い、素晴らしい青年と出会えて、ホームステイに関わって良かった。これは全員の感想であり、中国へのイメージが変わったこと。
- ・多くの先生方が関わり対応できたことで、留学生にとって貴重な話を聞くことができたと思う。
- ・同年代との交流は、今まで実施してきていると思う。幅広い世代の方との交流によって日本について幅広く知ることができたと思う。
- ・私の家庭にも中学1年を筆頭に娘が5人いるため、国際交流に対する意識を高めてくれればと思い、応募した。実際、外国の方と普段接する機会は多くないため、娘たちにとっても日本以外の国を知る良い機会となつたようだ。
- ・3日間はほぼ家族全員と一緒に活動したので、我々家族にとっても良い体験となった。
- ・事前の準備でどこに行くか検討することで家族のきずなも深まったように感じる。

#### 学生への評価

- ・礼儀正しく、穏やかで誰とも臆せず話が出来、又、自分を素直に表現し、反省する等、好感が持たれる。
- ・日本の生活や、文化を積極的に吸収しようとしており、日本を好意的に受け止めている。若い青年として「大志」を持っている。
- ・日本の歴史に興味があり、特に戦国時代やそれ以降にまつわる知識が豊富で、資料館を訪れた際、甲冑の試着を大変喜び、又、学芸員さんへの質問も詳細で、びっくりされていた。
- ・規律や判断がきちんとされ、親の育て方がうかがえた。又、相手を気遣う言動が随所にあった。
- ・朝の公園散策での、グランドゴルフでは、さすが若者、上手にスティックをさばき喜んでいた。
- ・ホストの家での子ども達に沢山のお土産を用意し、コミュニケーションを深めることができていた。また、もらったお土産は大変喜び持ち帰った。
- ・最後には、深々と感謝の気持ちでお礼を言った姿が印象的でした。
- ・日本語について、興味関心が高く、わからない言葉を理解しようと大変貧欲だった。
- ・とても良い生徒でした。日本の文化や言葉を学ぼうとする意識が高く、主体的でやりやすかったです。
- ・礼儀がしっかり身についており、立派な態度で不快感を与えるようなことがなかったです。
- ・自分から積極的に話しかけてくれるので、移動時間も気を使うことなく過ごせました。
- ・食事や観光など、一つ一つに対して、中国と日本の違いを積極的に話してくれて良かったです。
- ・「日本が好き」という思いがよく伝わってきました。
- ・子ども達と卓球で遊んだり、部活動の生徒とキャッチボールをしたり、積極的に取り組みました。
- ・勉強熱心で、とてもよい子でした。
- ・日本の文化を知ろうと、とても意欲的でした。
- ・日本の文化に積極的に飛び込むとする姿がすばらしいと思いました。
- ・日本語がとても上手です。漢字も不自由なく読めて見事です。
- ・日本に好感を持っていることが行動に表れていました。
- ・心遣いの細やかな女性です。母と散歩をしたり、家の生活をしたりしましたが、車の乗り降りに気を遣ったり手をつないだり、自然な行動として行ってくれました。「お先にどうぞ」「ありがとうございます」等がみに

ついています。

- ・日本とアメリカで勉強してから、後進国でボランティアをしたいという希望をもつていて、これからが楽しみです。
- ・何処にも一緒に行動しました。スーパー・コインランドリー・散歩・妹の家・学校等々、日本の姿をくまなくキャッチしようとしていました。とにかく素晴らしい女性でした。
- ・自然とまじめさが伝わる人柄で、娘たちともよく遊んでくれた。
- ・日本語は日常会話レベルでは全く不自由する様子がなく、意思の疎通に困る場面はなかった。
- ・回転寿司では食べたことがある食材が多くなく、なかなか注文できずにいた。

#### 今後への希望、改善して欲しい点

- ・英語圏の受け入れもしたいです。
- ・とても良い取り組みだったと思います。関係者の方々にはとても苦労をかけると思いますが、是非継続して欲しいです。
- ・お別れセレモニーは、帰りの時間もあり混む時間なので30分程度で良いかと思いました。
- ・やりたいことや興味があることなどもう少し事前に知っていると予定が組みやすく留学生ももっと思い出に残るのかなと思いました。（日本の家で過ごしたい、買い物いきたい、〇〇がみたい等何でも）
- ・今回来られた留学生は、家で過ごしたいというのもあったのでのんびり過ごす時間もありました。事前の打ち合わせだと観光や体験がメインになるようなイメージが合ったので、もう少し要望を聞いてあると迎え入れやすいと感じました。
- ・迎え入れる側としては、「何をして過ごそう」ということを決めるのが一番悩みました。
- ・体力もあって体調も崩さず無事に終わって良かったのですが、就寝時間や体調管理などが心配しました。
- ・特にありません。この素晴らしい事業を是非続けていただきたいと思います。
- ・事前の詳細な説明が、早い段階でわかると、計画や準備が立てやすい。今回はわずかの時間・日程で大変でした。
- ・説明会の折、もう少し細かい説明があったら良い。
- ・留学生のことを考えると、やはり子どもの居る家庭がお互い目的達成の為にも良いと考える。
- ・特にありません。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

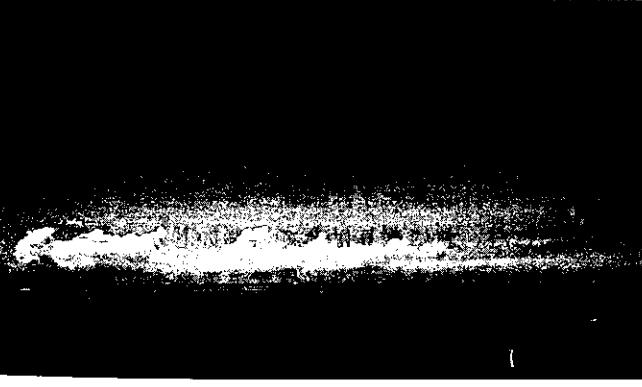
#### (4) 留学生報告

##### ホームステイについて

傅 舒桐

今回、日本の家庭に行って、とても良い経験になったと思います。ホームステイに行ったときはまだ私が日本へきて半年も経っていないときでした。日本人とあんなに長い時間一緒にいたのも初めてでしたし、日本人の家庭に行って、泊るのも初めてでした。楽しみな半面、不安も大きかったです。上手く話せるかな？仲良くなれるかな？と最初は正直不安でした。

でも、ホームステイを行ったら、すごく楽しいことばかりでした。学校の同級生と一緒に千葉に行って、ホストファミリーの皆さんに温かく迎えてくれました。私がお邪魔した日本の家庭は5人姉妹で、ちょっと珍しいかもしれないと思っていました。挨拶が終わって、ホストファミリーの家に行って、夕飯はみんなでたこ焼きを作りました。午後はポートタワーの上で周りの景色を見ました。夜はお風呂も体験しました。中国で湯船を使う家庭もありますが、



あいにくうちでは入りませんでした。

2日目は最初に国立歴史民族博物館に行きました。日本の文化と歴史を勉強できて、うれしかったです。

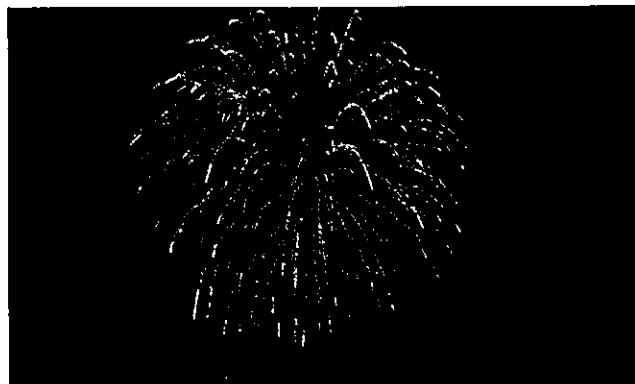
昼は回転ずしに行きました。日本で初めての回転ずしでした。

午後はみんなで遊園地に行きました。ヤギを触るとき、いきなり3, 4匹に囲まれて、びっくりしました。

夜は1時間くらい花火を見ました。初めての花火大会です。中国でも花火を見たことがありました。よく見かけるのは結婚式の時です。それに日本ほどいろいろな色や形はないし、大きくもないです。花火大会で空全体に咲いた大きい花火を見て、本当に美しいと思いました。

3日目は半日しかないので、私が海を見たいと言ったら、「海ほたる」に連れて行ってくれました。千葉と横浜をつなぐ一本の道路で、とてもきれいな海でした。

ホームステイはたった3日だけでしたが、私にとって大変貴重な経験でした。日本語を学び、日本の文化を知った上で、とても充実した時間を過ごせました。ホストファミリーの皆さんに心から感謝いたします。



### ホームステイ感想文

趙 祥虎

私はそっと出でています。来た時もそうでした。私は西の雲にそつと「さようなら」のあいさつをします。あの夏の思い出。今、この手紙でもう一度思い出します。

私が斎藤さんに会った時、少し緊張しましたので、日本語も上手く話せなかったのですが、車の中で、斎藤さんと私は英語と日本語でおしゃべりをしました。そのあと私は蕎麦を初めて食べたのですが、慣れなくて食べきれませんでした。

その後、私は初めて日本人のお宅にお邪魔しました。私はしゅんのすけ君と一緒に卓球をしました。そして、日本のテレビニュースも見ました。日本と中国の家庭での生活はほとんど差がないのだと知りました。それから私たちはお祭りに行きました。8月のお祭りはみんな和服を着ていて、たくさんの人たちと一緒に舞を踊っていました。「盆踊り」という舞だと教えてもらいました。

翌日私はくるみさんと一緒に千葉県の九十九里浜へ行きました。海を見ました。九十九里浜の海はとてもきれいでした。そして、その晩私は斎藤一家と一緒に花火大会を見ました。思い出を胸に刻みました。

3日の朝、私は斎藤さんの旦那さんが作るおにぎりを食べました。おにぎりはとてもおいしかったです。その後、私は斎藤さんと一緒にくるみさんが授業をしている中学校へ行きました。私はテニス部の中学生と一緒にテニスをしました。私はとてもうれしかったです。最後にくるみさんは千羽鶴を折って、私にくれました。今も大切にうちに飾っています。



今もあの夕方の美しい千葉の景色を思い出します。千葉県の思い出を詩で表現したいと思います。

永久に風になびく 四季を幸せに みなは私の詩の中にいる  
振り返ってみる 遠くまで歩いていない 別れを惜しむ  
あのころに戻りたい しみじみと思い出される 縁は異なるもの

斎藤さんは私に「気をつけて」と言う。

その一言に優しさが溢れている。

私はそっと出でいく。

私は手を一振りするが、一つの雲さえ持ち帰らない。

### ホームステイ感想

賴 彰云

8月の中旬、私は3日間のホームステイに参加しました。千葉県の家庭で楽しい3日間を過ごしました。日本人の日常生活や文化を味わうことができました。

私がホームステイした家庭には、2人の子どもがいました。大きい男の子は海地という名前で、小学校4年生です。小さい妹は留美という名前で保育園にいらっしゃいます。子どもたちはいつも元気で生き生きとした様子でした。お父さんの久津智さんとお母さんはとても優しい方でした。

最初に久津智さんと会った時私はちょっと緊張しました。何を話したらいいか分からなくていらいらしました。



でも子どもたちに会って、一緒に遊んだ後はどんどん落ち着きました。私は自分で手作り料理をしたいと言いましたから、第1日の晩御飯はみんなでお好み焼きを作りました。自分で様々な食材を準備したり、好きな形に焼いたり、そばをつけたりして、楽しかったです。

2日目はみんなでアンデルセン公園へ行きました。そこには面白い手作り体験教室がありました。子どもが楽しめる場所です。それにプールもあります。とても遊べる所です。私は自分で布を織りました。飾りパフェも作



りました。留美ちゃんと海地君も一緒に作りました。その後皆でピクニックをしました。とてもいい雰囲気でした。その日の夜、花火大会があって、私は初めて浴衣を着ました。浴衣の着方がとても煩わしいので、久津智さんは私を近所のおばあさんの家に連れて行きました。おばあさんが手伝ってくれて一緒に浴衣を着ました。そして夕方に、みんな坂に座って、晩御

飯を食べながら、綺麗な花火を見ました。いい思い出を作りました。

3日目は江戸川時代の町に行きました。日本の伝統的な生活を体験しました。それに美味しいお寿司もごちそうになりました。久津智一家の皆さんに、とてもありがとうございます。千葉県で過ごした3日間はとても楽しかった。色々な新しい物事と接触して、視野を広げました。

### 楽しい3日間

凌志棟

この感想文の完成は8月の末だった。しかし、千葉県で過ごした3日間のいろいろな出来事を振り返ると、まるで昨日起きたばかりのことみたいだと感じている。私は初めて日本人の家庭で同じ部屋で一緒に生活し、初めて日本語しか喋らない3日間を過ごした。大変貴重な経験だったと思う。これからもこんな機会は珍しいだろうと思う。今回のホームステイに参加できて本当に良かったと思っている。

もう1つの‘初めて’がある。初めてこんなに長く電車に乗ったことだ。空いた席も少なかったし、千葉駅に着いた時は足が痺れるほど疲れた。幸い荷物が少



なくて助かった。着いた後は千葉駅から千葉県教育会館へ行った。そして、初めて日本のバスに乗った。中国のバスと違って、後ろのドアが乗り、前のドアが降りだ。しかし一番の違いはやはりバス代が中国よりずっと高いことだ。千葉教育会館で、ホストファミリーの家庭と会った。お母さんと子ども2人だった。お互いに自己紹介したが、忘れっぽい私はどうしても子どもたちの名前を覚えられなかった。セレモニーが終わって、ホストファミリーの家に出発した。それから、いろいろなことを体験した。私は日本の剣道に興味があるが、中国ではなかなかやる機会がなかった。お父さんに「何かしたいことを言えばいい」と聞かれて、「剣道をやりたい」と言った。そしてお父さんが私を連れて剣道部の練習を見学した。剣道をやっている人の姿勢と勢いを感じ、ただ見るだけでも十分だと思った。もし機会があれば私は大学の剣道部に入りたいなあと思った。

次の日の朝、朝ごはんが終わって、八木さんが「ゲームをやりましょうか」と言って、私と八木さんと子ども2人でゲームを始めた。最初に一人



ひとり数字が書いてある札を10枚取って、同じ色の数字札を順に並べる。あるいは異なる色で同じ数字の札を並べる。最初に自分の札がなくなる人が勝ちというゲームだった。1回目で私は多分運がいいから勝ったが、あとは全然欲しい札を取れなかった。ゲームをやっている間に、なんかこの家庭に馴染んだ気がして、仲良くなるのではないかと感じた。

この3日間のことはなかなか書ききれない。空手の見学と香取神宮、一緒にスーパーマリオをやることも、書道をすることも、とてもとても楽しかった。八木さんと家族のみんなに会えて本当に私は光栄だった。私は感想文を書くのが苦手だと知っている。そこで私は

千葉を離れる前に自分の気持ちを手紙に残しました。一番言いたかったことはその手紙に込めた。

いろいろ、本当にありがとうございました。

### ホームステイの感想文

卢子牛

夏休みの間に、私は宮野さんの家に泊まって、楽しい3日間を過ごしました。この3日間は、一瞬に過ぎてしまったけれども、今でも宮野さんの家のことをはっきりと覚えています。私は言葉で感情を表すことよりも、写真で表すほうが好きなので、楽しかった3日間の記憶を保存するために、たくさんの写真を撮りました。

留学生活を始めてから、私はずっと都内に住んでいます。それで、ホームステイに行く前に、先生から「山武市は田舎だよ」と聞いて、ちょっと不安になりました。また、私は日本語があんまり上手ではないので、「もしそちらの方とうまく交流できなかつたらどうしようか…」とか、いろいろな心配が出てきました。だけど、宮野さんの家の人たちは、大変優しくて、私の不安はだいに消えてきました。

今回のホームステイで、始めて日本の田舎の生活を体験することができました。そして、今回のが、私に一つの夢を与えてくれました。私は、「日本の山武市みたいな場所で生活したい。」「山武市みたいな静かで綺麗な場所で生活したい。」と思うようになりました。普段は、毎日コンビニ弁当とファーストフード食べている私が、ホームステイの間、本物の日本の家庭料理を食べました。本当に美味しかったです。日本の家庭は、暖かくて心を柔らかくしてくれました。

